

国連防災世界会議パブリックフォーラム「東日本大震災の災害ボランティア活動を振り返る」 で講演・鼎談を行いました（2015/3/14）

テーマ：災害ボランティア、東日本大震災
場所：仙台市シルバーセンター（仙台市青葉区）

3月14日（土）、仙台市青葉区の仙台シルバーセンターにおいて、国連防災世界会議のパブリックフォーラムとして、仙台市及び仙台市社会福祉協議会の主催、災害科学国際研究所等の後援による災害ボランティア・フォーラムが、「東日本大震災の災害ボランティア活動を振り返る ～実践から見た課題と解決方法、ボランティアの価値～」をテーマに開催されました。このフォーラムで、当研究所の人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野の丸谷浩明教授が、オープニングメッセージとしての講演を行い、結びの鼎談にも登壇しました。

このフォーラムは、東日本大震災において被災地各地に設置された災害ボランティアセンターと全国各地・海外から被災地に集結した災害ボランティアが、それぞれどのような役割を担い、被災者・被災地に関わり、何をもたらしたのかの検証、評価を行うとともに、災害ボランティアを効果的に活かすための視点や手法について考え、今後の災害に向けた提案を行うことを目的に開催されました。

冒頭、丸谷教授から、「東日本大震災における災害ボランティア活動の意義と課題」と題して、日本における災害ボランティアの活動経緯や政府の対応、直面してきた課題について説明がなされ、続いて、東日本大震災における各地の災害ボランティアセンターの活動の実践報告が行われました。さらに、大学、NPO・NGO、企業等の支援者など、様々な立場からのボランティア活動の実践について発表が行われ、東日本大震災での活動を振り返りながら、今後の大規模災害の発生懸念も念頭に、災害ボランティアの活動をどのようにしていくべきかが話し合われました。

鼎談では、地域の特徴を踏まえた災害ボランティア活動が必要であるとの認識を確認し、また、東日本大震災の災害ボランティアセンター等で社会福祉協議会が果たした重要役割を評価しつつ、大学、NGO、企業のボランティアなどの多様な主体による災害ボランティア活動の役割、意義などが話し合われました。



鼎談の様子

文責：丸谷浩明（人間・社会対応研究部門）